

小田原市教育委員会定例会会議録

- 1 日時 令和3年7月27日(火)午後6時30分～午後7時00分
場所 小田原市役所 7階 大会議室

2 出席者氏名

- 1 番委員 柳 下 正 祐 (教育長)
2 番委員 吉 田 眞 理 (教育長職務代理者)
3 番委員 森 本 浩 司
4 番委員 益 田 麻衣子
5 番委員 井 上 孝 男

3 説明員等氏名

- | | |
|-----------------------|---------|
| 理事・教育部長 | 北 村 洋 子 |
| 教育部副部長 | 飯 田 義 一 |
| 教育総務課長 | 下 澤 伸 也 |
| 学校安全課長 | 鈴 木 一 彰 |
| 教育指導課長 | 高 田 秀 樹 |
| 教育相談担当課長 | 西 村 泰 和 |
| 教育指導課指導主事(指導係長事務取扱) | 松 澤 俊 介 |
| 教育指導課指導主事(教育相談係長事務取扱) | 橋 本 賢 治 |
| (事務局) | |
| 教育総務課副課長 | 府 川 雅 彦 |
| 教育総務課主査 | 菊 川 香 織 |

4 議事

- 日程第1 議案第23号 小田原市いじめ防止対策調査会委員の委嘱について
(教育総務課)
- 日程第2 議案第24号 令和4年度使用教科用図書(小中学校特別支援学級用)の採択について
(教育指導課)
- 日程第3 議案第25号 令和4年度使用教科用図書(中学校社会(歴史的分野))の採択について
(教育指導課)

5 報告事項

- (1) 市議会6月定例会の概要について (教育部・文化部)
(2) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応について(その8)
(教育部・文化部)

6 議事等の概要

- (1) 教育長開会宣言

○柳下教育長 本日の出席者は5人で定足数に達しております。

- (2) 6月定例会議事録の承認

(3) 議事録署名委員の決定… 2番 吉田委員、3番 森本委員に決定

(4) 日程第1 議案第23号 小田原市いじめ防止対策調査会委員の委嘱について

(教育総務課)

○教育総務課長 それでは、御説明いたします。

議案書をおめくりいただき、「小田原市いじめ防止対策調査会委員名簿」を御覧ください。

本調査会の委員につきましては、小田原市いじめ防止対策調査会規則第3条の規定により、医師、弁護士、臨床心理士、及び教育委員会が必要と認める者のうちから委嘱することとなっております。

任期については2年と定めており、令和3年7月31日をもって現委員の任期が満了することから、新たに委嘱する委員について御提案させていただくものでございます。

名簿に記載した5名の候補者のうち、一番右側の欄に「再任」と書かれた芦田正博氏、嶋崎政男氏、横田俊一郎氏の3名につきましては、引き続き委員をお願いするものです。新任の2名につきましては、2ページ目を御覧ください。

下段の「前任者」に記載の弁護士の田代宰氏の後任として、同じく弁護士の坂本結氏を、また、臨床心理士の小倉直子氏の後任として、同じく臨床心理士の杉崎雅子氏を、いずれも小田原市いじめ防止対策調査会委員として適任と考えられますので、委嘱いたしたく提案するものでございます。

なお、新任候補者の坂本氏、杉崎氏の2名は女性ですので、委員の女性比率は、40%となります。

説明は、以上でございます。

(質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

(5) 日程第2 議案第24号 令和4年度使用教科用図書(小中学校特別支援学級用)の採択について

(教育指導課)

○教育相談担当課長 それでは、御説明申し上げます。

特別支援学級においては、通常の学級で使用する教科用図書を使用することが適当でない場合には、一般図書(附則第9条図書)及び特別支援学校用(小中学部用)教科書目録の2種類から、適切な図書を選び、使用できるようになっております。

学校教育法附則第9条に基づいた一般図書の採択につきましては、毎年採択することができるようになっており、各学校が児童生徒一人一人の状況に応じて選択した図書を、学校の設置者である所管の教育委員会が、教科書として採択するものでございます。

各校の選択にあたっては、国が調査研究し、文部科学省が作成した「令和3年度用一般図書契約一覧」、神奈川県が調査研究し作成した「令和4年度使用神奈川県立特別支援学校採

採教科用図書調査研究資料」を参考にし、各児童生徒に応じたものを各担任が選択しております。

委員の皆様にご本日ここで御審議いただく「令和4年度使用教科用図書（小中学校特別支援学級用）の採択について（案）」につきましては、各児童生徒用の図書としナンバー197のコード外1冊を含むナンバー1から226までの226冊を、発行者ごとにまとめ1から5ページにお示ししてございます。

コード外とは、神奈川県が調査研究し作成した「令和4年度使用 神奈川県立特別支援学校採択教科用図書調査研究資料」に掲載されていないため、学校が独自に発行社と連絡を取り合い採択希望として提出されたもので、これまでであった図書の続編になります。

また、特別支援学校用の教科書から児童生徒に適しているとした図書につきましては、文部科学省が作成した特別支援学校用教科書目録から選択した5冊を、5から6ページにございますナンバー227から231までにお示ししてございます。

学校教育法附則第9条に基づいた一般図書、特別支援学校用教科書のいずれも、各学校の特別支援学級の担当者が、それぞれの学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の個性や発達段階、障がいの度合いなどを考慮しまして、「その子にあった最適な教科書は何か」という視点で、保護者の方と確認したうえで選択したものが、これらの231冊となります。

各学校から希望が出された図書につきましては、教育委員会事務局教育指導課にて精査したうえで、この一覧表を作成しております。

以上で説明を終わらせていただきます。

(質疑)

○吉田委員 特別支援学級用の教科書につきましても、とても重要なことでしっかりと選びたいと思っておりますが、一人一人のお子さんの特性に応じた選び方をしますと数が多くなるということで、事前の研究もさせていただきました。

その結果、決めていくプロセスがとても丁寧で、一人一人のお子さんに合った教科書を担当されている先生が選ばれているということを確認できましたので、一つ一つの教科書とそのお子さんへの適正というのは、担当の先生が把握されて、また保護者とも相談されてきたということ。私は充分ではないかと思いました。

(その他質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

(6) 日程第3 議案第25号 令和4年度使用教科用図書（中学校社会（歴史的分野））の採択について (教育指導課)

○教育指導課長 それでは御説明申し上げます。

本日は、5月教育委員会定例会にて議決いただきました「令和4年度使用中学校教科用図書の採択方針」に基づいて、文部科学省による教科書検定で合格した教科用図書の中から、小田原市の生徒に最もふさわしい教科書を、教育委員の皆様、採択権者として採択していただきます。

皆様には、事前に神奈川県教育委員会が作成した「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、教科用図書調査研究の結果、社会（歴史的分野）（令和4・5・6年度使用）」、教科書展示会の参加者アンケートまとめ、市立中学校社会科教員の意見等をお送りしております。これらの資料に加え、皆様独自の調査研究、令和2年度における検討の経緯及び内容や採択の理由等を基に、御協議いただくこととなります。

本日、採択していただく種目は、社会（歴史的分野）1種目のみとなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上です。

（質疑・意見等なし）

○柳下教育長 それでは、令和4年度使用中学校の教科用図書の採択について、協議に入る前に、採択の方法を確認します。

各委員におかれましては、事務局から送付されている資料を基に、独自の調査研究をされていることと思います。その調査研究を基に、各委員が、小田原の子供たちにとって最もふさわしいと考える教科書について、1社または2社について御意見をお願いします。

一通りの御意見をいただいた後、挙手による採決を行います。過半数のものがあればそれを採択しますが、過半数となるものがない場合、再度上位2社または3社による採決を行います。

このような方法で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○柳下教育長 御異議ないようですので、そのようにいたします。

それでは、中学校社会（歴史的分野）の教科用図書について、委員の皆様から御意見を伺います。

（意見）

○吉田委員 今回採択にあたりまして再度この分野の教科書を読ませていただきました。私は前回帝国書院を推しました。その時の理由として、歴史を学ぶことによって人々の営みを知ることができたり、これからの姿を考えていくことができる教科書であるということ、また、タイムトラベルというところがとても興味を引くというようなところ。私自身面白く読ませていただきました。全編を通じて問いかけたりできるようになっているという

ころ、人が生きてきた姿が生き生きと、それが歴史を作っているというところが良いのではないかということで前回帝国書院ということで1票入れました。

今回読んでみてやはり帝国書院が私としては是非小田原の子供に学んでいただきたい教科書ではないかと思いました。その理由として、問いかけや振り返りがとても多くて、生徒自身が歴史を通じてグローバルな視点で未来を描けるように働きかけている教科書であること、また、多様な考え方への導入や多様性に関しても全編に通底していると考えます。

そして、様々な立場や多様性を踏まえた未来のためにというようなことが書いてあり、歴史的な考えを身に付けるスタンスとして、様々な立場とか多様性をしっかりと考えながら、未来のために歴史を学ぶのだという姿勢が素晴らしいと思いました。前回採択時に評価した歴史を学ぶことによりこれからの姿を考える。そしてグローバルで多様性のある考え方ができるようになっていくということが、軸になっている教科書だと感じましたので、帝国書院を推したいと思います。

○益田委員 私も昨年、帝国書院を推させていただきました。今回、改めて教科書を読ませていただきました。やはり帝国書院は、事象の裏にある人々の思いや立場に着目して、多角的に歴史的を捉える工夫がされていると改めて感じました。

「はじめに」の中の歴史の舞台に立って人々の置かれた状況や多様な願いへの理解を深めれば、人々の様々な立場と多様性を踏まえた未来の社会の成長を考えていける。私たちは未来のために歴史を学ぶという言葉に今回も共感しました。その歴史に対する姿勢は多様性を重視していくこれからの教育に不可欠な姿勢だと思いました。

また、吉田委員がおっしゃったように各単元のはじめのタイムトラベルはとても私にとっても興味深く読むことができました。時代への興味を引く仕掛けがなされていて、また、「説明しよう」とか「確認しよう」というコーナーでは自ら考え自ら表現するという促しがあり、主体的な学びにつながっているなと感じました。

以上のことから帝国書院を推したいと思います。

○井上委員 小学校で歴史を学んでも興味や関心が持てない生徒がいます。時代の様子や出来事をイメージすることができる情報が少ないのかもしれませんが。教科書を開いた時に興味が持て、そして少しでも主体的に学んでいこうと思える教科書が良いかなと思いました。

今年、自由社を含めた8社の教科書の中から、細かく丁寧に読んだつもりですが、私は帝国書院の教科書を推したいと思います。

帝国書院は各章のはじめに「タイムトラベル」と言う見開きページがあり、学ぶ時代のイメージがぱっと視覚的に一気に飛び込んできます。これは他の教科書と比べてとても分かりやすく、インパクトがあると感じました。生徒も興味が持てると感じました。

また、思考力や表現力を育成するために、各社まとめの質問や確認の問いがページの見開きごとに設けられていました。自由社には「チャレンジ」があります。何々をまとめてみよう。要点をまとめてみよう。思いついたことを挙げてみよう等、幅広い問いとなっていて、少し難しいかなと感じました。他社も「チェック」「トライ」「確認」「表現」など設けら

れておりますが、やはり記述をしていくのに、ちょっと難しいかなという印象を持ちました。

その点、帝国書院は「確認しよう」「説明しよう」で、「確認しよう」は本文から書き出してみようと具体的に指示をしています。本文への再確認が基本を押さえ答えを出しやすい問いになっています。「説明しよう」では、「何々を説明しよう」と、難しいように思えるが、何々を例にして等考えるポイントを示し、生徒には捉えやすいと思いました。基本的な学習とポイントを押さえた学習ができるよう配慮された教科書だと思いました。

また、本文の補足資料では、関連づける内容や量がバランスよく掲載されていて、歴史の学習に引き込まれていくような工夫を感じました。教育出版や東京書籍もそれに近いところがありました。ただ、他社の資料は少し中学生では難しいなと思えるもの、補足資料が少し足りないものもありました。その上で帝国書院は的確な資料配置だったと思います。

最後に巻末の年表がとても見やすいと思いました。たかが2・3ページの年表ですが、社会の歴史にとって年表とは非常に大事なもので、広げた時に扱いやすい、見やすい、例えば日本の歩みと世界の出来事の関連付けがとても分かりやすく載っていました。また、開く頻度が高いものですから、折り畳みの仕様が三つ折りよりも見開きの二つ折。たいしたことではないのですが、使う頻度が多いものについては、開きやすいというのも非常に大切だなと思いました。以上のことから総合的にみて帝国書院を推したいと思います。

○森本委員 私は昨年度帝国書院を推させていただきました。歴史は決して暗記科目ではなく、過去の出来事などから、なぜそれが起きたのか、その理由や関係性を考え、その教訓を現代に活かすことが重要であると思います。今回も帝国書院を推したいと思います。

まず、最初の目次では歴史の流れと時代の区分が各章を色分けされ分かりやすくしていました。そして、主体的・対話的に学ぶための学習の仕方を、最初にまとめて記載されていました。これは、生徒が繰り返し学習内容を確認できるように工夫されているなと思いました。

また、写真の資料や図、表、グラフといった資料が多く掲載されており、それも大変見やすく分かりやすく構成されており、使いやすい教科書であると印象を受けました。先ほどからお話がありますが、特に「タイムトラベル」では、その時代の社会の様子を見開きのページで大きく図示されており、その時代のイメージを視覚的に捉えることができ、生徒の歴史に対して興味・関心を高めるように工夫されていると思いました。そして、最後の国際社会におけるこれからの日本の節で、未来のために歴史から学ぶ重要性とどのように生かしていくのかを分かりやすく書いてありました。学ぶ生徒・教える先生にも帝国書院が大変分かりやすく使いやすい教科書と思い再度帝国書院を推させていただきたいと思えます。

○柳下教育長 最後に私の考えを言わせていただきます。私は日頃から子供たちには社会力を育ててほしいとお願いしております。社会力というのは子供たち一人一人が自分の持っている力、個性を十分に発揮して充実した人生を送ってほしい。その中で、より良い地域社会を創ってほしいということです。そういう生き方をするというのを考えた時に歴史を学ぶ意義は何か。私なりの考えですけれども、過去のその時代のその時々の人々の生活の様子

や政治文化等を学んで、それに対する自分の考えを持つこと。そして、自分の生き方と、どういう世の中を創っていくのかということの参考にしてもらいたい。それが歴史を学ぶ意義とっております。そういう力を育む点で最もふさわしい教科書会社はと言うと帝国書院を推したいと思います。

もう1社教育出版と迷いましたが、結論的には帝国書院ということで、皆さんと同じになります。具体的な理由としては、やはり各委員が申し述べたように興味関心を持って学ぶための工夫がされているということです。何回かでておりますが「タイムトラベル」、各章の終わりに学習を振り返ろうということがございます。その時々に対する自分の考えをしっかりと持って、それを友達と話し合い学び合うことでより良いものを求めていこうということで工夫がみられる。また、確認・表現というのがございまして、それらに対して自分の意見や考えをしっかりと見つめ直すという工夫もできてくるということがあります。

そして、もう一つ大きな理由は現場の教師に聞いたところ、大変使いやすいということでした。社会科の現場の教師の声でございますけれども、資料が豊富で見やすいということがありました。また、生徒の興味・関心を高めることが工夫されているということ。現場の教師の声というのは大きいと考えております。

教育出版と悩んだ理由は、歴史を身近に感じる工夫がされているということです。歴史を身近に感じ、地域を学ぶことが必要だと思っております。教育出版の中に、「身近な地域の歴史を調べよう」というコーナーがあるのです。これがとても良いなと思ったのがその理由です。私は常々小田原を教材化してほしいと先生方をお願いしてございまして、歴史・文化・産業・気候等が小田原は子供たちが学ぶのに非常に優れたところです。そういう点で小田原の歴史を学んでほしいと思っております。そういうことから、教育出版も良いなと思ったわけですが、帝国書院の中にも地域史というのがございまして、それぞれの地域の歴史が大事だということも示されていますので、そこを大事に小田原の教材化も進めてほしいなと考えまして、総合的に判断して帝国書院と決めさせていただきました。

(その他意見等なし)

○柳下教育長 御意見をいただきましたので、採決に移ります。(1社ずつ、挙手による多数決)

東京書籍	…	0票
教育出版	…	0票
帝国書院	…	5票
山川出版社	…	0票
日本文教出版	…	0票
自由社	…	0票
育鵬社	…	0票
学び舎	…	0票

○柳下教育長 採決の結果、「帝国書院」を令和4年度使用教科用図書（中学校社会（歴史的分野））の教科用図書として採択いたします。

○柳下教育長 次に、報告事項（1）市議会6月定例会の概要について及び報告事項（2）「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応について（その8）」は資料配布とさせていただきますので、御了承ください。

7 教育長閉会宣言

令和3年8月27日

教 育 長

署名委員（吉田委員）

署名委員（森本委員）